

祖父の手帳

私の祖父と祖母は、長年祖父の仕事の関係で、国内を転々として生活をしてきた。祖父が定年退職をしてから地元へ戻ってきた祖父と祖母。近くにいる身内は長男である私の父だけであり、他の子どもたちは、遠方で生活をしている。

その祖父が9月に亡くなり、遺品の整理をしていると、沢山の手帳が出てきた。

中をのぞいてみると、日々の日記が記されていた。

日記といっても、長い文が書いてあるわけではなく、その日にあった出来事などがメモ程度に書かれているだけであった。

どんなことが書かれているのかとみていると、

「〇月〇日、〇〇さんが遊びに来た。」

「〇月〇日、〇〇さんがおいしい水をもって来た。」

「今日は、菊の花が一輪咲き始めた。」

ほとんどの内容は、誰々が来たという内容と、趣味の菜園の様子が書かれている。祖父がそんな日記を書いていることが驚きであった。

ページをめくっていくうちに、ふとあるページで目が止まった。

「〇月〇日、〇〇さん（私の母）と〇〇さん（私の妻）が一緒に来る。子どもができたと報告。ひ孫が生まれる。」

記憶があいまいだが、結婚して初めての子どもを授かり、祖父母にその報告に行くことを私の両親から何度も催促をされていたが、仕事でなかなか報告にいけない私の代わりに、私の母と妻と一緒に報告に行ったことを思い出した。その時も、祖父は、

「お～そうか。」と言って野菜を取りに行ったと後から妻が話していたことを思い出す。

「もしかして」と思い、ページをめくっていくと、私の父、母、私、兄弟、・・・が、何気なく顔を見に行った時のことも、結婚や出産に関する話に行った時のこともきちんと手帳に記されていた。大正生まれで朴訥としていた祖父は、いつも会いに行くと、

「お～来たか。野菜をもって行け。」

とだけ言って野菜を取りに行っていた。

そんなそぶりは全然見せなかったが、きっと手帳に書いてある一つひとつの出来事が、祖父にとっての幸せの時間だったのだろう。

今思うと、・・・自分で報告に行けばよかった・・・と悔やまれる。

祖父の一周忌が終わると、後を追ったかのように祖母も他界した。

晩年、2人で喧嘩もしながらも、お互い90歳を超えるまで元気に生き抜いてきた祖父母。

今も、喧嘩を繰り返しながら、一緒に過ごしていることをのぞむ。